

環境省

「サステナブルで健康な食生活に関する意見交換会」

2021年8月30日

パルシステム生活協同組合連合会
常務執行役員
高橋 宏通



パルシステムのSDGsの取
り組みについて、こちらか
らPDFでご覧いただけます



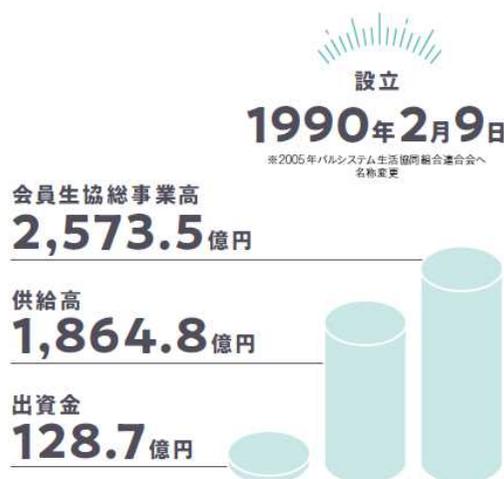
パルシステム生活協同組合連合会のご紹介

■パルシステムグループの理念とビジョン

理念
心豊かなくらしと共生の社会を創ります

2030ビジョン
「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり

■組織概要(2021年3月31日現在)



■パルシステムの事業の特色

環境配慮に適している生協宅配



生協の宅配は毎週定期的に訪問し、前週に注文された商品をお届けします。

注文からお届けまで1週間あるため、調達に発生する食品ロスがほとんどありません。

毎週カタログが届く宅配サービス



毎週合計
約3,000品目を取り扱い

「サステナブルで健康な食生活について」 提案①

■ パルシステムの環境と産直

「ただ食べる人」から、「食べること」により、
「自然、環境、地域を守る人」になることが可能になる。

消費者が購入の際に、安全、環境、
地域貢献が見えて、選べるように
すること。
“選ぶで変わる”地球の未来。



消費者と生産者の距離を縮める
取り組みが必要。
コロナ禍での新たな交流の仕組みを確立。

生産の現場をみると「食べたくなる！！！」
＝エシカル、サステナブル

生産の現場をみると「食べる気が失せる……」
~~＝~~ サステナブルではない



「サステナブルで健康な食生活について」 提案②

■コロナ禍で広がる格差問題

貧富の格差
首都圏と地方、農村。

特に、有機の産地は外食産業や観光需要の激減で厳しい状況。

アニマルウェルフェアの推進。
過密飼育、薬剤の過剰投与からの脱却
「日本型畜産」

今こそ、消費者が支える時期。

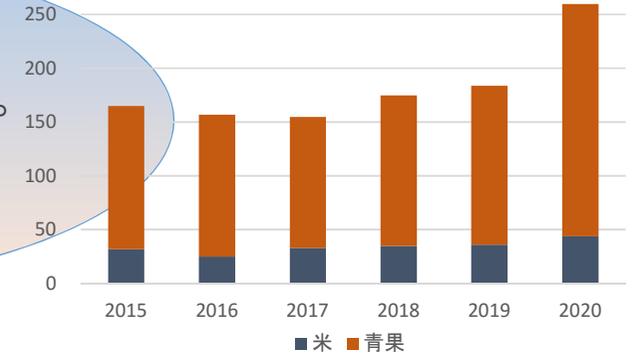
SDGs、エシカル、有機はブームではない。
ブームが去ると元に戻るのにはサステナブルではない。

コロナ禍でも、継続的に
消費者と産地が結びついている。
↓
販売が伸びている。

「日本型畜産」モデル図 ポークランドグループ(秋田県)の例



有機栽培の米、青果の受注額の推移
単位: 千万円



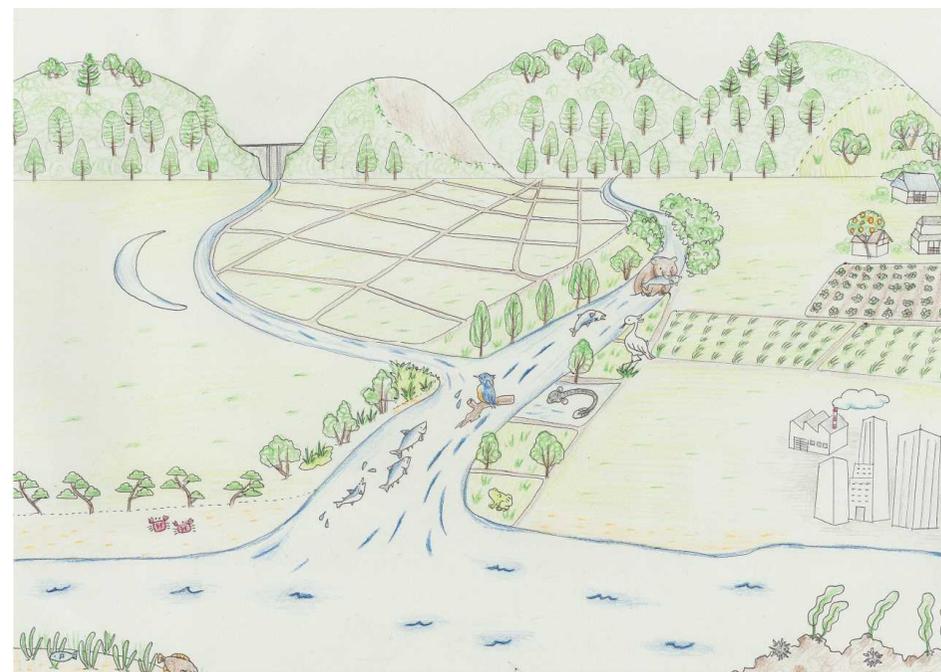
「サステナブルで健康な食生活について」 提案③

■有機農業、環境保全型農業の推進

- ・環境保全型農業、有機農業を全国に拡大し、生産者をサポートする。
- ・継続的、安定的な消費を行う。
- ・未来の子ども達に生きものと、土と、人と、文化とふれあい、**子ども達が農業のファンになる**チャンスを作る。

■総合的な環境保全のために

森林、里山、河川、海の総合的な環境保全が必要。獣害、水害などは農業者だけでは解決できない。



森林の保全はCO2削減にも大きく貢献



「サステナブルで健康な食生活について」 提案④

■食品ロスの取り組み

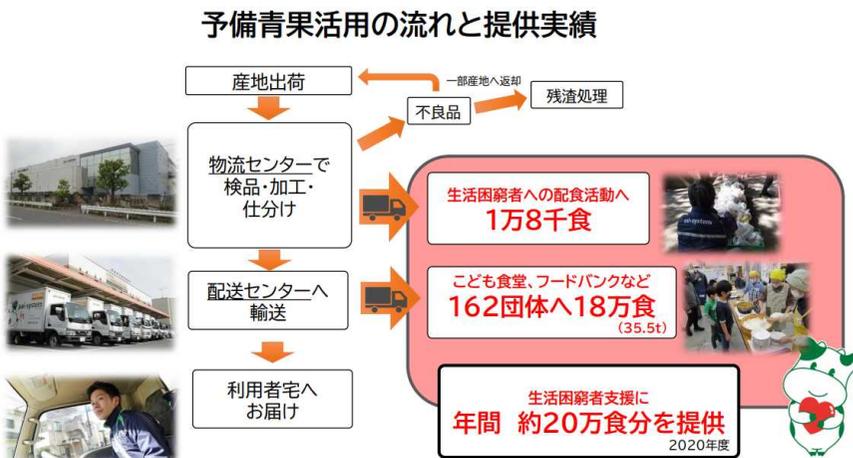
生産者、事業者、消費者、行政、いずれもプラスになる取り組み



1 買い物前にストック確認
2 ふそろい・廃ありも活用
3 調理は食べられる量で
4 まるごといただきます
5 かしく保存します

Webでは「食べきりエコ」に
登録してヒントもいっぱい！
詳しくはこちら！

2020年10月
食品ロス減らそう「食べきりエコ」



■ゴミをエネルギーに

